

第 38 回総合治水ワーキングチーム会議の協議結果

日 時 平成 18 年 5 月 19 日 (金) 13:00 ~ 16:30
場 所 ひょうご共済会館 ツツジ
出席者 (委員) 松本 (誠)、奥西、川谷、畑、村岡、岡田、加藤、佐々木、中川、
浅見、伊藤、草薙、酒井、谷田、土谷
(河川管理者) 田中、森田、渡邊、前川、前田、西村、合田
(河川整備課) 寒川
(事務局) 林、長尾、植田

内 容(協議結果)

1 総合治水対策の検討

(1) 整備計画における貯留施設の検討

「整備計画における貯留施設(既設ダム)の検討」等について、河川管理者から説明があり、協議した結果、下記のことを確認した。

青野ダムについては、予備放流に加え、事前放流を行った場合の治水効果量の試算値を次回流域委員会(5月22日開催予定)に報告し、濁水リスクについては継続して検討する。

千苅ダムについては、土木遺産として堰堤等を残すこと及び利水への影響と対策は別途の課題とすることを前提とし、検討中の治水効果量の試算値を次回流域委員会に報告する。なお、現段階で未確認の、既設の放流施設の能力、新たな整備が必要となる施設等については、継続して検討する。

丸山ダムについては、放流を最適化するための改造を行うことを前提としたときの、事前放流等による治水効果量の試算値を次回流域委員会に報告する。

中流域での遊水地候補地について、治水効果量の試算値を次回流域委員会に報告する。

(2) 整備計画における流域対策(水田)の検討

畑委員から「総合治水における水田の役割と整備計画」についての意見書、また松本委員長から、長野県上川流域協議会の水田貯留対策についての提言書と関連資料が提出された。「武庫川流域における注意報・警報」について、河川管理者からそれぞれ説明があり、いずれも継続協議することとなった。

(3) 整備計画目標流量

整備計画目標流量の次回流域委員会での取り扱いについて協議した結果、下記のことを確認した。

整備計画の目標流量と対策について、千苅ダムの治水転用による治水効果量の試算値を含めて、報告する。

県が提案している整備計画目標流量(H16型1/30)について、各委員は意見を述べる。意見が分かれた場合は、意見が収斂するよう討論を行う。

(4) 基本高水の選定

運営委員会から、基本高水を一本化するために専門部会を設置するよう提案があり、協議した結果、下記のことを確認し、次回流域委員会に諮ることとなった。

基本高水は委員会として一本化することが大前提であることを委員会で確認する。

専門部会は、コアメンバーとして学識経験委員および専門的技術的な議論に参画できる委員で構成し、その他の委員は傍聴委員として参画する。必要に応じて時間を限って質問等を行う。部会の進行役・コーディネーターは松本委員長が務め、合意できるまで討論を行う。

専門部会の運営、日程、メンバーについては、運営委員会で詳細を詰める。

(5) 生物およびその生息環境の持続に関する原則

「武庫川水系に暮らす生き物およびその生息環境の持続に関する原則の提案」については、総合治水WTからの提案として、次河流域委員会に報告することとなった。

(6) 基本方針、整備計画での河道分担量の検討

「武庫川河川整備計画改修断面図」について、河川管理者から説明があり、協議した結果、整備計画での河道分担量の上限値については、甲武橋基準点において2,800m³/sとすることを確認した。また、基本方針での河道分担量については、甲武橋基準点において3,700m³/s前後を目安とし、基本高水の選定結果を踏まえて調整する。

2 その他

(1) 次回以降の会議の協議事項

総合治水対策

(2) 今後の日程（開催日時）

第39回	5月23日(火)	13:30~
第40回	5月30日(火)	13:30~
第41回	6月6日(火)	13:30~
第42回	6月13日(火)	13:30~

当日配付資料

資料 1-1 第37回WT会議 総括メモ

資料 1-2 武庫川河川整備計画改修断面図

資料 1-3 整備計画における新規ダム代替案の検討

資料 1-4 整備計画における貯留施設の検討

資料 1-5 武庫川流域における注意報・警報

資料 2 総合治水における水田の役割と整備計画（畑委員）

参考 1 豪雨時における水田貯留による流出抑制の提言書

参考 2 第23回総合治水ワーキングチーム 資料 6